

令和5年2月25日（土）イオン八事ショッピングセンターでのEプロ活動「名城大学薬学生とご家族と一緒に学ぼう！くすり実験教室」（共催：特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構（NPO J-DO））

名城大学薬学部では出前講義の一つとして、高齢者や小学生に「くすりの適正使用」や「薬物乱用の防止」に関する授業や体験実験を特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構（NPO J-DO）の協力の下に行っています。昨年10月から定期的にイオン八事ショッピングセンター（4階 G.G イベントコーナー）にて、「名城大学薬学生と一緒に学ぼう！くすり実験教室」を開催しています。今回も前回に引き続き、休日の2月25日（土）にご家族を対象として開催しました。

イオン薬局八事店薬局長の山本真一郎先生のご協力の下、同会場（4階G.Gイベントコーナー）にて「名城大学薬学生とご家族と一緒に学ぼう！くすり実験教室」を下記内容で開催しました。当日はご家族をはじめとして、延べ34名が来場されました。体験実験では多く参加者が、目の前で起こる変化に興味を持ち、熱心に説明を聞いていました。参加者からは、「飲む種類が違うだけで効果が変わったり、変な症状になることが分かりました」、「とても分かりやすい実験と説明でした、子どもにもわかりやすいと思いました」、「単純な知識さえ、忘れていた事に気がつきました」などの感想をいただきました。今後取り上げてもらいたいテーマについては、「シロップ剤の味見」、「子供が薬を飲みやすくする工夫」、「分包体験」などで、今後の活動に生かしていきたいと思います。日常の薬に関する疑問や服用薬については、教員が丁寧に対応していました。Eプロの活動としては今年度最後となりましたが、これまでの活動を通して、地域住民の薬に対する疑問や不安を知る機会となりました。また、様々な年代の来場者に対して、疑問や不安への受け答え、理解しやすい言葉や表現の使用の意識など、大学では学べない知識・態度・コミュニケーション能力を学ぶことができました。

イオン八事ショッピングセンターにおける「くすり実験教室」

日時：令和5年2月25日（土）11時00分-14時00分

場所：イオン八事ショッピングセンター（4階G.Gイベントコーナー）

内容：

・「体験実験」

コーナーを4テーブル設置し、5つの実験を体験できるブースを用意しました。Eプロの薬学生（5年生7名、4年生5名）は、実験目的の説明などを行いました。来場者からの質問にも丁寧に対応するようしていくよう努め、非常に貴重な学びとなりました。イオン薬局八事店薬局長の山本真一郎先生、鍋島俊隆先生（NPO J-DO 理事長）名城大学薬学部 野田幸裕教授（NPO J-DO 副理事長）、間宮隆吉准教授（NPO J-DO 理事）には、集客や実験が円滑に進められるように助言をしていただきました。

<実験項目>

①薬の溶ける工夫（飲みやすさ）

②薬と飲食物との関係（相互作用）

実験1：コップ一杯の水かぬるま湯で「くすり」を飲むのはなぜ？

実験2：水がなくても飲める「くすり」があるのを知ってる？

実験3：シロップの「くすり」と「お茶」を一緒に飲むとどうなる？

実験4：「うがいぐすり」でうがいをした後に、

すっぱい食品を食べるとどうなる？

実験5：オレンジジュースで胃痛を和らげる「くすり」を飲むと

どうなる？



制作：Eプロ（名城大学薬学部病態解析学Ⅰ：若原和生、野田幸裕）
薬品作用学（間宮隆吉）
監修：NPO J-DO

